

# 令和3年度 県立竹園高等学校自己評価表

目指す学校像	個性と創造性の伸長を図り、社会の要請に応え得る広い視野と、磨かれた知性・たくましい体力・気力を合わせ持つ人材の育成を図るため、以下の項目を重点とした学校づくりを行う。 ○自己・他者・地域・国際社会などの多角的な視点を持ち、諸問題に対する幅広い関心と理解のもとに調和のとれた課題解決を図ることができる資質能力の育成を図る学校。 ○英語・日本語など複数の言語で議論するコミュニケーション能力を磨き、他者の意見を尊重しながら協働して合意形成を図ることができる資質能力の育成を図る学校。 ○自国の文化や歴史を尊びアイデンティティを確立し、持続可能な共生社会の実現に向けて主体的に考えて行動できる人間の育成を図る学校。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
昨年度は新型コロナウイルス感染予防に、様々な対策を行った。例年とは異なる学習環境ではあったが、各組織において、設定した目標をおおむね高いレベルで達成することができた。本年度も活動内容が制限されることが予想されるが、下記の目標達成に向けて取り組んでいく。 ・「グローバルリーダー」の育成に向け、現在取り組んでいる事業のさらなる充実 ・授業や学校運営においてのICT活用方法の確立 ・「キャリア・パスポート」等の活用による豊かな心のさらなる育成	(1) 学習指導、進路指導および生徒指導の充実	① SDGs 未来都市つくばの国際生豊かな環境を生かした教育活動を行う。 ② ICT を活用し、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けたさらなる授業改善、指導法研究を行う。 ③ 家庭学習時間の自己管理を促すとともに、学習時間を確保するための指導を強化する。 ④ 自律的な生活態度・規範意識を向上させ、効果的な学習・進路指導に繋げる。 ⑤ 生徒の進路希望実現に向けて、大学入学者選抜改革にも対応した組織的な支援を行う。	A	
	(2) 豊かな心の育成	⑥ 「道徳」、「道徳プラス」を活用し、人権感覚を身に付け、人間力を養う。 ⑦ 特別活動への積極的な参加を促し、「キャリア・パスポート」の活用により、知徳体のバランスのとれた人間性を育む。 ⑧ 校内内外の清掃、学校施設の充実に努め、快適な学習環境を整える。	B	
	(3) 「グローバルリーダー」育成事業の推進	⑨ 県指定である「県立高等学校等チャレンジ・プロジェクト」(重点校)の活動を通して、将来国際社会で活躍できるグローバルリーダーの育成を図る。 ⑩ 「探Q」活動の充実と拡大を図る。 ⑪ ACEプログラムの一層の充実を図る。	A	
	(4) 情報発信の充実	⑫ 学校HP、スクールガイドの内容を向上させ、情報発信を充実させる。 ⑬ 学校説明会の内容を充実し、本校の魅力を正しく伝える。 ⑭ 地域、近隣の小・中学校、PTA、同窓会との連携を密にする。	B	
	(5) 働き方改革の推進	⑮ ICT の利活用等により校務処理や教材研究の効率化・効果化を推進し、教員のゆとりを生み出し、教育活動の質を向上させる。	B	
三つの方針		具体的目標	評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・多角的な視点を持ち、諸問題に対する幅広い関心と理解のもとに課題解決を図れる資質能力の育成 ・複数の言語で議論するコミュニケーション能力を磨き、他者の意見を尊重しながら協働して合意形成を図ることができる資質能力の育成 ・自国の文化歴史を尊びアイデンティティを確立し、持続可能な共生社会に向けて主体的に考えて行動できる人間の育成	A	・「教える」から「学ぶ」への転換 「習得・活用・探究」の学習サイクルを回す ・新学習指導要領の理念に基づき諸活動の見直し
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・県内の学習指導、進路指導を牽引するリーダー校として、学力向上の推進、難関大学及び医学部志望者への進路実現 ・国際科においては特に「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」のバランスが取れた育成を図る	B	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	・様々な分野に対して興味を持ち、探究心旺盛で、積極性・主体性に富む意欲のある生徒 ・国際的な諸問題に関心を持ち、英語等の言語及び異文化理解に努める生徒 ・自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒	A	・「主体的対話的で深い学び」の実践

別紙様式2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	国語	基礎学力の充実を図る。	学習指導計画に基づき計画的に授業を実施し、基礎学力の定着を図る。 ③④⑬	B	B コロナ禍の影響で計画通りには行かない点もあった。 毎授業の小テスト実施は各担当が遺漏無く実施している。全体的に不十分だった。 教員間での相互研究の為の時間が充分確保できなかった。 生徒の取り組み状況にはばらつきがある。定期考査ごとに記述問題を複数題課した。小論文指導については業者教材を活用しつつも、事後の個別対応については不十分な点があった。
			小テストを実施し、基礎学力の定着と予習復習の習慣を身に付けさせる。 ①③④	A	
			基礎学力が不十分な生徒に対して個別に働きかけ、学習意欲を喚起する。 ①⑤	C	
	発展的学力の向上を図る。	国語を適切に表現し的確に理解する能力を身に付けさせるとともに、論理的思考力及び表現力を伸ばすために、授業展開を工夫し、また国語科の教員間で研究する。 ①②	B		
		問題集を精選し、その取り組みを促すことで、自学自習の態度を身に付けさせるとともに、確かな学力の向上を図る。 ②③	B		
		難関大学入試問題に対応できる国語力育成のために、論述問題や小論文指導の充実を図る。 ③④	B		
地歴公民	指導方法の工夫改善に努め、授業を軸とした基礎学力の定着を図る。	学習指導計画に基づき授業を実施し、授業を軸とした学習サイクルを確立することで、基礎学力の定着を図る。 ①③	A	B さらなる深化をめざさなくてはならない。教科内研修の取り組みが不足した。 さらなる実践をしていく必要がある。 連携が不足した。	
		教科内で授業研修を行い、生徒の能動的な学びを促す授業づくりができていないか検証を行う。 ②	B		
	教科間で連携し、発展的学力の向上に努める。	歴史的・地理的・公民的視野に立った思考力を育成するため、授業における主体的・対話的で、深い学びの取り組みや論述問題を取り入れた考査等を実践する。 ②	A		
		教科間で連携をとり、大学入試に対応できる発展的学力の育成を目指す。 ⑤	B		

## 別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科	数学	授業の内容の充実を図り、思考力の育成に努める。	教科担当で教材を共有し、授業の進め方、内容の情報交換を密にして授業の改善を図る。①⑮	A	B ・共通テストへの更なる対応と新課程に向けての準備。 A ・課題の精選と取り組み方の指導の徹底 A ・コロナウイルス感染防止のため、生徒実験の減少 ・ICTの活用と生徒実験の機会を増やし、主体的・対話的な学びを取り入れた授業の展開	
			クロスカリキュラムやアクティブラーニングを積極的に導入し主体的かつ対話的に学ぶ姿勢を作る。②⑤	B		
			各考査及び模擬試験により学力の定着度合いを分析して、その結果を指導に生かす。①⑤	B		
			関連する発展的内容を扱い、思考力と成績上位層の育成に努める。②⑤	A		
			学習習慣の定着を図る。	教科書傍用問題集を定期的に評価することで学習習慣の確立を促す。③④		A
				各学年で課題(小テスト、章末テスト等)を設定することで、復習内容の高質化を図る。③④		A
		基礎学力の向上を図る。	長期休業中の課題を工夫し、自学自習の習慣を確立させる。③④	A		
			各考査後の解き直しを徹底させることで、深い理解を促す。④	A		
			基礎学力が不十分な生徒に対して補習を実施する。②⑤	A		
			教員への質問を奨励し、個々の理解度に応じた対応を心掛ける。②⑤	A		
	理科	基礎学力の向上及び思考力や表現力の育成を図る。	課題や小テストの実施により、基礎学力の向上と学習習慣の定着を図る。③④	A		
			クロスカリキュラムやアクティブラーニングを積極的に導入し、主体的・対話的な学びの姿勢を作る。①②	B		
授業における発問の工夫や実験実習等の探究活動を通して、論理的思考力を育成する。①②			B			
ICTの活用により、指導法や教材の開発・工夫に努めながら教材研究の効率化を図り、授業の質を高める。②⑮			A			
SSHの継承と発展を図り、課題探究学習の充実を図る。		SSC部の各分野において研究テーマを設定し、課題研究を実施する。また、探Q活動において生徒の関心に沿った適切なテーマを設定し、より深い探求活動ができるよう指導を行う。②⑩	A			
		先端科学講座(外部講師を招聘したクロスカリキュラム)などの、授業を発展させた講義を取り入れることにより、科学に対する興味・関心・国際感覚(国際的視野)を高める。①②	A			
保健体育	授業の充実を図る。	体育：生徒が主体的に活動する授業の実現とともに、個人技能の段階的な向上を目指し、各生徒へ適切なアドバイスを行えるようにする。また生涯スポーツの基盤づくりとして体力の維持増進を意識させ、仲間との交流を通じ各運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう努める。①②	A			
		保健：各単元の理解を深められるよう、視聴覚教材や実習を活用し指導方法を工夫する。2年生では「道徳プラス」を活用し、環境問題について深く考えられるようにする。②⑥	A			
	体育授業における事故防止に努める。	集団行動・準備運動の徹底、道具の管理や使用方法などについて注意を促す。体調不良や怪我が起こった場合には、養護教諭と連携し迅速かつ適切な処置を行う。④	A			
		コロナウイルス感染予防のために、マスク着用、換気や消毒などを徹底する。状況に応じて授業で取り扱う種目を検討する。⑧	A			
	体育施設・器具の充実を図る。	体育施設の修繕、用器具の充実を図り、体育授業の活性化と安全性の向上に努める。②	B			
芸術	授業内容の充実を図る。	幅広い芸術活動を設定し、様々な表現方法に触れ、芸術の良さや美しさを味わえるように学習内容を工夫する。①②⑮	A			
		我が国および諸外国の歴史や文化的背景に基づく表現の方法を学び、それぞれの芸術文化についての理解を深め、多様な価値観を認め合う資質や能力を育成する。①②	B			
	基本的な知識や技能を身につけ、表現の能力を伸ばす。	主体的・意欲的に芸術活動に取り組む姿勢を育て、楽しみながら表現を工夫し基礎基本と表現の能力を養う。②④	A			
		生徒個人の表現能力や進捗状況を的確に把握できるように観察し、適宜個別指導を丁寧に行う。②④	A			

別紙様式 2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	外国語	国際社会で活躍するために必要な英語の基礎力を各学年の状況に応じて習得させる。	生徒が主体的に参加する授業を実施し、学習意欲の向上・各学年において必要な水準への到達を図る。 ②④⑮	A	B	新課程への対応(教科書の使用方法、評価基準、評価方法など)  スピーキングテストなどのアウトプット活動の評価方法
		使用する英語の正確性を意識しながら、コミュニケーション能力を高める指導を行う。	ACEプログラムの各プロジェクトにおいて目指す水準への到達が図れるよう、準備・実施・フィードバック等きめ細かな指導を行う。 ①④⑪ 国際科と連携し、スタディツアーでのプレゼンテーション指導を効果的・体系的に行う。①④⑪	A	A	
		効果的な授業を展開するために、教員間の授業研究や情報交換を十分行う。	教員間の授業見学・意見交換を活発に行う。また、定期的な教科会やメーリングリストの活用をとおり、学年及び学年間の活発な意見交換に努める。 ①②	B	A	
	家庭	授業内容の充実を図る。	主体的に生きる力を身につけられるよう、実習やクロスカリキュラム・アクティブラーニングを導入した指導法や教材の工夫改善に努める。 ①② グループでの実験や実習等を可能な限り取り入れ、他者との対話を通して協働できるよう授業展開や教材開発に努める。 ④⑮	B	B	
一人の生活者として必要な基本的な知識・技術力の向上を図る。	実習や体験学習を通して、自らの家庭生活の充実向上を図る実践的態度を養う。 ④ ホームプロジェクトの実践を通して主体的に生活課題を解決する力を養う。 ②④	B	B			
実習教室の学習環境の整備。	安全安心な授業のために、実習教室の衛生面・施設面の充実を図る。 ⑧	B	B			
情報	情報リテラシーの育成に重点を置く。	Gmailおよびgoogle classmateの基本的な操作法を習得する。 ②④	A	A	新課程に向けての準備と共通テストへの対応。	
教務	生徒の能動的学習意欲を喚起する。	年間計画やシラバスを提示し、生徒の計画的・主体的学習に役立てる。 ②③ 観点別学習評価を明示して生徒の学習の実現状況を適切に評価し、その評価を指導に生かす。 ②	B	B	・新教育課程の詳細な指導内容・指導計画の研究を行う。 ・校内ICT研修の更なる充実。 ・カリキュラムマネジメントの研究に取り組む。 ・観点別評価を浸透させる。 ・相互授業参観を励行する。	
	教科の指導力向上を図る。	授業参観の機会を設定し、指導方法の工夫・改善を図る。 ①②	B	B		
	日常の業務を円滑に遂行する。	出張・年休等による授業変更を円滑に行い、授業時間の確保に努める。 ②	A	A		
		欠席・遅刻・早退・忌引等について、出席簿や白板への記入漏れ防止に努める。 ⑧	B			
		印刷機やコピー機等の使用に際して、用紙等の節約やリサイクルに努める。 ⑧	A			
	職員室や教室等の環境整備に努める。	職員室・印刷室内の整理整頓、備品等の管理・保全に努める。 ⑧	A	B		
		各教室や特別教室等の環境整備(机、椅子、情報機器、蛍光灯等)に努める。 ⑧	B			
	迅速かつ正確な情報発信に努める。	学校案内パンフレット等を一新し、魅力ある竹園高校をアピールできるようにする。 ⑫	A	A		
		学校説明会や授業公開等を通してPR活動を積極的に行い、本校の特色を正しく伝えるとともに、参加者の増加に努める。 ⑬	A			
	ITを活用して、竹園高校の活性化に努める。	コンピューターを活用した教育の推進を図る。 ②⑧⑮	B	B		
ホームページの充実を図り、魅力ある竹園高校をアピールできるようにする。 ⑫		B				
校務支援システムの運営を円滑に進める。 ②⑧		B				
教育課程編成を円滑に遂行する。	各教科からの要望に配慮しつつ、本校の将来構想に沿った教育課程の編成に努める。 ①⑮	B	B			

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立に努める。	学校内外での挨拶を励行させる。 ①②	B	あいさつの励行を徹底させる。	
		学校内外での登校指導を行う。 ①②	A		
		服装・頭髪について適宜指導する。 ①②	A		
	交通ルールやマナーの向上に努める。	集会やHRを通し、交通安全やマナー向上の教育を実施する。 ①	A		A
		自転車についての指導を適宜行う。交通安全教室を実施する。 ①	A		
		竹園地区マナーアップ推進事業に積極的に協力する。 ⑭	B		
	安全管理意識を高揚させ、事故防止に努める。	保護者や関連機関との親密な連携を保つ。 ⑭	B		B
近隣で起きた事件・事故の情報を速やかに全生徒に情報提供する。 ⑭		B			
豊かでたくましい人間性を育てる。	集会・HR・授業など多くの場で、多様な形態で心の教育を行う。 ①⑤	A	A		
進路指導	生徒の適性をとらえ、生徒一人一人のキャリア発達を促すために、学力の把握と実力養成に努める。	卒業生による学部及び大学生活全般の説明会を行う。 ①⑤	B	今年度も長引くコロナウイルス感染症の影響で、大学のオープンキャンパスが中止となり、大学教員を招いての学部学科紹介模擬授業も規模を縮小したうえでオンラインでの実施になるなど、生徒のキャリア形成のための機会が大幅に減少してしまった。来年度もコロナウイルス感染症の影響は大きいと考えられる中、生徒の的確な進路選択をどのように支援していくのが課題である。	
		オープンキャンパスや一日医師体験・看護体験への参加を通してキャリア形成を図る。 ①⑤	B		
		県の医学部進学支援に基づき、医学部医学科進学希望者への支援を計画的に行う。 ①②③④⑤	B		
		各回の模擬試験について、学年間比較・他校間比較などの分析により生徒の学力の把握に努める。 ①③⑤	B		
		各学年と連携し、生徒との進路相談等を適宜行うことで、生徒のキャリア形成を支援する。 ①③④⑤	B		
	生徒の学習館及び進路ラウンジの利用を促進する。	進路ラウンジを整備し、多くの進路情報を提供すると同時に、赤本等の貸出を的確に行うことで生徒の学習の支援をする。 ③④⑤	B		B
		朝や昼休み、放課後等の学習館の利用促進をはかり、生徒の自学自習の態度を育成する。 ①③④⑤	A		
	適切な進路情報を教員・生徒に提供する。	進路情報交換会や進路検討会等を通して、進路情報を学校全体で共有し、生徒の進路実現の支援を図る。 ①③④⑤⑬	B		B
		大学合格者数等進路に関する正確な統計を処理し、適宜情報を提供する。 ①⑤	B		
		進路要覧を作成し、本校の進路状況を生徒・保護者・職員に提供する。 ③④⑤	B		
大学説明会や予備校の講習等に積極的に参加することで、各大学の入試の変更点や「高大接続改革」等についての情報を収集し、職員・生徒に提供すると同時に、今後の検討課題を明らかにしていく。 ①②⑤		B			
保健厚生	生徒の心身の健康状況を把握して、生徒自らが健康課題を解決できるように努める。	定期健康診断を通して、生徒自身の発達や健康状態を知り、健康管理能力を高める。また、保健委員の自主的な活動を促すことにより、教員の負担軽減に努める。 ④⑦⑬	A	・健康診断後の受診治療率の向上。 ・情報共有する場や機会の設定。 ・保健講話実施時期と受講に十分な時間の確保。 ・避難の実訓練の実施。	
		保健室の利用状況から配慮の必要な生徒の情報を学校全体で共有できるようにする。	B		
	健康・安全教育を通して、生徒の心の教育を充実させる。	医師による講話を実施し、生徒に自己をみつめ、自尊感情を抱く機会を持たせる。 ①⑥⑦	A		B
		AED装置を迅速に正しく扱えるよう教員向AED講習会を実施する。3年に一度の受講を促す。	B		
	学習環境の整備を図る。	防災訓練を通して、防災意識の高揚や、非常時の適切な行動の必要性を学ばせる。 ⑦⑭	B		B
		教室の適切な換気・温度管理や衛生管理を自らできるように促す。 ④⑧	B		
		清掃用具の補充に留意して清潔な環境の維持に努める。また、清掃用具の補充の作業には整美委員会の生徒の自主的な活動を促すことにより、担当教員の負担軽減に努める。 ⑧⑬	A		

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
図書	調べ学習に役立つ図書利用の充実を図るとともに、利用しやすい図書館を目指す。	図書館内の整理整頓及び図書資料の適切な配架に努める。 ④⑧⑮	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書資料の購入について、本校の教育課程を考慮して行う。</li> <li>・ 古い図書資料の除籍・更新につとめる。</li> <li>・ 図書委員会の活動をGoogleClassroomを活用して行う。</li> <li>・ 広報活動のICT化をよりすすめる。</li> </ul>	
		授業での図書館利用や図書の購入・廃棄に関して、各教科との連携をより一層密にする。 ①②	A			
		新着図書や推薦図書などの広報活動を行う。 ③⑤	A			
		カウンター当番、ミニ館報の発行、図書選定等、図書委員の活発な活動を促す。 ⑦	A			
	図書館利用におけるマナーを向上させる。	図書の無断持ち出しや延滞をしないよう指導し、延滞者には督促状を頻繁に出す。 ④	A			
		館内での飲食禁止を徹底させる。 ④	A			
		視聴覚室、機材等を利用する授業の支援体制を整える。	視聴覚教材などを利用した授業の支援のため、視聴覚教室や機器の保守・管理を行う。 ①②			B
	放送委員会の活動を促進する。 ⑦	B				
渉外	PTA活動の円滑な運営を図る。	本部役員会や各種専門委員会の積極的な活動を支援する。 ⑭⑮	A	A	コロナ禍において最大限努力した。コロナ禍にもかかわらず、今年度は教員も支部会に参加できた。	
		支部活動が充実したものとなるよう支援する。 ⑭⑮	B			
	生徒・保護者の視野を広めるための活動に取り組む。	「進路セミナー」「家庭教育講座」が有意義に実施されるようセミナー委員会と協力し、企画・運営する。休日の委員会については、振り替えて休みをとるなど働き方に配慮する。 ⑭⑮	A			A
		PTA広報紙「樟の木」を広報委員会と協力して発行し、広報紙を通じてPTAや生徒の活動が会員の間でより身近になるようにする。休日の委員会については、振り替えて休みをとるなど働き方に配慮する。 ⑫⑭⑮	A			
	PTAや同窓会組織の主体的な活動への協力を行う。	支部会の活動に多くの教職員が積極的に関わり、保護者と率直な意見交換を行い、生徒の教育活動に生かせるようにする。 ⑭	B			B
		同窓会との連携を深める。 ⑭	B			
教育相談	生徒のより良い学校生活のための支援及び困り感を持つ保護者への支援を行う。	「相談部便り」の定期発行(11回)を行う。 ④	A	B	SCとのケース会議を実施した。各学年とは効率的な連携を目指したい。	
		生徒理解の研修会を開催する。 ⑦	A			
		生徒の不応適把握のための相談部を実施する。 ③④	C			
		スクールカウンセラーとの連絡会を実施する。 ④	A			
		各分掌と連携を密にする。 ③④⑮	A			
		学校行事のあり方を研究誌各学年・各校務分掌と連携して取り組む。また竹高生であることの誇りと自覚を持って学校行事に取り組む姿勢を養う。 ①⑦	A			
		部活動や委員会への積極的な参加を促し活動を通して個性の伸長と豊かな人間性を育む。 ⑦	A			
		県立高等学校チャレンジプロジェクトへの積極的な参加と活動の充実を支援し、活動を通してグローバルリーダーの育成を図る。 ③⑤	B			
		ホームルーム活動を通して社会的職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てる。 ⑤	B			
		教務部や進路指導部と連携しキャリアパスポートの準備を進める ⑤⑦	B			
生徒間及び教師間のコミュニケーションを密にし情報共有と組織力を向上させ行事運営の円滑化を図る。 ⑤⑦⑮	A					

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
特別活動	働き方改革の推進を目指す。 社会の一員として望ましい人間関係に配慮する態度や公共心を養う。	学習の両立を図るために活動時間に計画性を持たせる。さらに生徒の自主性、主体性を重んじた企画運営に努め担当教員の負担軽減を目指す。⑮	B	A	生徒会も積極的に活動してくれ教員の負担は減らせたのではないかと。来年度はさらに生徒に任せる部分を増やしていきたい。	
		公共心を育てるためにボランティアへの積極的な参加を促す。⑥⑧	B			
		文化・伝統や環境への関心を高めより充実した活動として具現化する。⑥	B			
		生徒間及び教師間のコミュニケーションを密にし情報共有と組織力を向上させ行事運営の円滑化を図る。⑤⑦⑮	A			
企画開発研究	本校の特色ある教育活動の企画運営を円滑に行う。	国際科・各教科・各学年・各分掌や、他の機関(学校・研究所等)との連携・協力のもと、県の「チャレンジ・プロジェクト」事業を活用して本校の特色ある教育活動の企画・運営を行う。①②⑥⑨⑩⑪⑮	A	A	教科のバランスを配慮した部員構成にする。  ・探Q基礎は、充実しているが、精選する必要がある。 ・探Q基礎班の構成メンバーとして1年生の副担任を必要とする。 ・夏休みの合同発表交流会があり充実していた。次年度も実施したい。  ・コロナで海外スタディツアーが実施できない場合のプランを次年度も考えておく必要がある。 ・「国際理解実践」についても同様。	
		学年との密な連携や道徳プログラムの整理により、道徳を円滑に実施できるようにすることで豊かな心の育成に努める。①⑥⑩	A			
		教科や学年と連携し、探Q基礎の運営およびプログラムの確立を目指す。①②⑥	B			
	道徳、探Q基礎、探Q(課題研究)のさらなる深化を図る。	国際科と連携し、探Q(課題研究)の指導方法を開発するとともに、研究内容の充実を図る。①②⑨⑩⑪	A			
		スタディツアーの充実を図る。	①②⑨			A
		スタディツアーの行程や研修内容について、2学年との連携のもと決定する。①②④⑨	B			
	科学教育・プロジェクト学習・国際理解教育を推進する。	道徳プラスにおいてスタディツアーの事前事後学習を行うことで、普通科探Q活動の充実を図る。①②⑥	A			
		国際科と連携し、国際科スタディツアー(学校設定科目「国際理解実践」)の研修について、検証と再構築による充実を図る。①②⑨⑩	A			
		探Q発表会の内容の充実を努め、探Q活動を学校全体の取り組みとして確立させる。①②⑩	A			
		理科・情報科・英語科を中心に、各教科と連携し、科学教育・プロジェクト学習・ACEプログラムの充実を努める。①②⑨⑩⑪	B			
授業研究を推進する。		授業研究委員会・各教科との連携のもと、クロスカリキュラム、アクティブ・ラーニング等を開発推進する。①②④	B			
学校間交流等を実施する。	「未来の先生育成プロジェクト」、地域の幼稚園から大学までの交流等を企画する。①⑤⑭	B				
芸術鑑賞会の充実を図る。	芸術鑑賞会のテーマ決定や運営を行う。①⑥⑦⑨	A				

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国際科	企画開発研究部と連携し、事業の充実を図る。	グローバルリーダーとして育成すべき生徒の基盤能力(知的好奇心や論理的思考力、情報発信能力等)向上のため、国際科事業(課題研究、研究室訪問、海外スタディツアーなど)の検証と改善を行う。①②④⑨⑩⑬	B	A	・1年生に国際科の特徴および魅力を伝える工夫が必要。 ・「国際理解実践」(スタディツアー)の履修内容について海外に行けなかった場合を予め想定して用意しておくが良い。
		国際科事業のノウハウを整理活用し、普通科を含めた全校事業の開発を行う。①②⑥⑨⑩	A		
	適切な学科選択の支援に努める。	1学年との連携のもと、生徒の適切な学科選択を支援する。①⑤⑨	B	B	
		説明会やガイダンスを通して、国際科の特色に対する生徒や保護者の理解の深化に努める。⑬⑭	B		
	国際理解教育の推進に努める。	ホームページや学校説明会、探Q発表会、探Q活動報告書などを通して、生徒、保護者、中学校、小学校、地域、同窓生等に国際科の活動に関する情報提供に努める。⑬⑭⑫	B	A	
		企画開発研究部や教科、学年と連携のもと、留学や学校交流プログラム等に積極的に取り組む。①⑦⑨	A		
事務部	安全、快適な学習環境を維持するため、日常的な施設設備点検及び校舎内外の環境整備に努める。	安全、安心を優先した学習環境の整備を計画的に行う。⑧	A	A	感染症拡大防止のためパワータンク・サーモグラフィを導入した。業者による清掃を入れつつ、技術員と連携し設備点検につとめた。
		施設・設備の不具合への対応を迅速に行う。⑧	B		
		学校用務員と連携し、日常的な施設設備点検と環境美化に努めると共に、定期的な業者による清掃等を行うよう努める。⑧	A		
第1学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。	服装、身だしなみ、挨拶、言葉遣い等、社会規範と個性の調和のとれた行動を促す。④	A	A	本年度はおおむね目標を達成している。次年度に向けては、学校の中心となるのでさらなる自覚を植え付けたい。 目標の家庭学習時間は達成していない。ICTに関しては学習・連絡等で有効に活用している。来年度は、さらなる有効活用を目指したい。 文理選択に関しては、適性に応じた指導が出来たが、進路意識はまだまだである。
		欠席、遅刻への指導を徹底し、規則正しい生活を促す。④	A		
		各種学校行事および道徳やHR活動を通して、相手を尊重する心や協力しあう姿勢を育むとともに、規範意識を高める。⑥⑦⑧	A		
	授業を軸とした学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。	授業の重要性を意識させるとともに、家庭学習時間の定着を図る。授業(予・復習)⇒定期考査(振り返り)⇒授業(予・復習)というサイクルを確立させる。③④⑧	B	B	
		小テスト等を活用し週末の家庭学習を促すとともに、成績不振者の早期発見ときめ細かな指導に努める。①④	B		
		面談に必要な情報収集等にICTを積極的に活用することで授業および個人面談の効率化を図り、より個々の生徒に応じた学習指導や援助を行う。②⑤⑬	A		
進路意識を高め、進路の方向性の明確化を図る。	文理および学科選択について、生徒個々の希望・適性に応じた指導を行う。担任・学年間の進路情報共有を効率化し、進路指導の質を向上させる。①⑤⑬	A	B		
	道徳やHR活動を通して、長期的な展望に立ったより高い進路の意識付けを行うとともに、社会の一員としての自覚を持たせ、自己のあるべき姿を考えさせる。①⑥⑦⑨	B			

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第2学年	規律ある生活習慣の維持に努める。実践意識を高め、中心学年として学校全体を牽引する役割を担う。	挨拶や服装の指導を行うとともに、早い時間の登校を徹底し、規則正しい生活を促す。また、校舎内外の清掃に努め、健康的で学習に集中できる生活習慣を確立させる。 ④⑥⑧	B	B	朝8時20分に着席できない生徒がまだいる。規則正しい生活習慣はこれからの進路実現に不可欠であることを自覚させたい。委員会・部活動等で学校の中心的な役割を果たすことができているので、今後下級生への引継ぎと受験への切り替えをしっかりとさせたい。国際科の探Q活動発表は高評価であるが、普通科も茨城ドリームパス事業へ参加するなどして探Q活動を積極的に行うことができた。9月の休業期間を含め、Google Classroomを十分に活用することができたので、今後もICTも活用した学習支援を継続していく。進路指導については担任が個別面談を通してきめ細やかな進路相談に応じることができている。今後はクラス横断的な進路支援についても企画していきたい。保護者から好評なメルマガは今後も継続し、適切な情報共有をしていきたい。
		学校の中心的存在となることを目指し、スタディツアーや尚志祭等の学校行事に積極的に取り組んでいくことで、規範意識と社会性の高揚を図りながら同時に人間的成長を促す。 ④⑦	A		
		道徳プラスを実施し、討議型・協働型の活動をとおして道徳的判断力・実践意欲を身に付ける。教科横断型の探求活動等を通して、他を思いやることのできる豊かな人間性を涵養していく。 ⑥⑩⑪	B		
	授業を軸とした学習サイクルを継続し、能動的に学ぶ姿勢を身につける。	授業の予習・復習を中心とした学習習慣を確立できるよう、個人面談をとおして家庭学習状況を確認し、生徒の個に応じた自己管理能力の育成を支援する。業務の効率化を図るためにICT等を積極的に活用し、限られた時間を有効に活用し、生徒たちとの良好な人間関係の構築を図る。 ②③⑤⑬	A	B	
		成績不振者の早期発見に努め、ICTを積極的に活用しながら個に対応した学習支援をしていく。 ④⑤	B		
	進路目標を明確化し、自己実現の達成を目指す。	適切な進路情報提供と、探QやFFにおける学術的活動や進路活動をとおして、自らの進路を主体的に選択しようとする姿勢を育む。 ①⑨⑩	B	B	
保護者との連絡・個別面談等を密に行い、生徒との信頼関係を築くとともに、適切な進路目標の設定を促す。キャリアパスポートを活用し、自己実現の達成を目指した活動計画作成と実践を促していく。 ④⑤⑦		B			
第3学年	進路目標の実現を図る。	授業を軸とした学習を大切にさせ、さらに課外等にも積極的に参加させ、適切な質問対応を図り、確かな学力を身につけさせる。 ②③④	A	A	
		定期的に個別面談や進路講演会を実施し、適切な進路情報の提供と個に応じた進路相談の充実を努める。 ①⑤	A		
		クラス内や学年内において互いに刺激し合い、励まし合い、助け合うような雰囲気醸成する。 ③④	B		
	強い意志と柔軟な心を持つ人間性の育成を図る。	最高学年としての責任を自覚させ、様々な活動への積極的参加を促し、他者を尊重する心や協調性を養う。 ⑥⑦⑧	A	B	
個別面談や教員間の情報交換を密にして問題行動や悩みを抱えた生徒の早期発見に努め、校内外の各部署・各機関と連携しながらその解決に努める。 ①⑤⑬		B			

※ 評価規準： A 十分に目標を達成できた。 B ほぼ目標通りできた。 C 目標に届かず、成果が上がっていない。